

愛知のうたごえ協議会ニュース

TEL 052-351-2618 FAX 052-355-7035

愛知のうたごえ

2025. 9. 3 No.5



愛知のうたごえまなぼ企画 合唱講習会 小島岳志氏のご指導に多くの学びが！ 「曲をひもとく」「響きのもたらす雰囲気を探る」おもしろさを実感！



8月3日(日)民主会館にて小島岳志さんを講師に迎えて合唱講習会が開催されました。小島さんは昨年の県の合唱発表会の講評委員から指揮者講習会を経て、今回初めてご自身の指揮によって合唱講習を進めていただきました。指揮者講習会でもぜひ見本の指揮をとる声もありましたがそれは合唱講習会での楽しみと言うことで待望の講習会となりました。

講習曲は2025日本のうたごえ祭典合同曲の中から「さくらさくら」「ふるさと」「新世界」の三つで少し難し目の編曲でした。初歩の和声進行についても触れられ、なぜこの音を取りにくいのかなど歌手が注意すべきところや曲の楽しさなどを様々な表現を使い教えていただきました。参加者からの感想では小島さんの講習について、(1つの曲を変調も含めてひもとく、この音はどんな意味があるのだろうかとたどっていく作業が興味深く参加することができました。むずかしかったけれど楽しかったです。)(新世界のラストが、テレビ番組の「また来週…」という感じの例えなど、なるほどぴたりとイメージしやすかったです。伴奏の仕方の変化や全体の和音の重なり、響きのもたらす雰囲気を探る作業もとてもおもしろかったです。パートの音をたどるだけでなく縦の重なりの大切さを教えていただきました。)など新しい発見があったことが伺えます。

また講習会について楽譜を初めて手に取ったなどの準備不足も否めない面もありました。指揮を見ずに歌うことも多くなっていたのがとても勿体ないと感じました。祭典歌集をできるだけ早く多くの人に届けるのも今後の課題だと思います。

今回の講習で合唱にとって和声やハーモニーの大切さを改めて感じた方が多くいらっしゃると思います。自分ではなかなか学べない方へもア・カペラ講座やまなぼ企画として楽曲分析の時間を取り上げることも必要だと感じました。小島さんの講習会を継続していくことで更に合唱団の音楽活動が高まっていく事を予感させる講習会でした。

(名古屋青年合唱団 和賀 達郎)

みんなあつまれ！

9/27は名古屋市公会堂へ



今年は、戦後・被爆80年この節目の年に、私たちは広く県民の中に、核も戦争もない平和な世界を願い、9月27日名古屋市公会堂を全館借り切って「あいち平和のつどい」を準備しています。

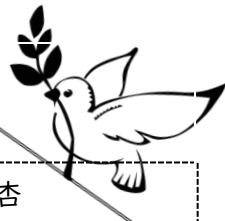
当日の大ホールでは、午前中に原爆犠牲者追悼慰霊祭～偲ぶつどい～を開催、午後2時から文化企画として第1部「いのちのバトン」朗読と合唱、ダンスによる構成劇、第2部「輝く未来へ」金本さんと若い世代の座談。第3部はみんなで作る平和のステージ、青年・子どもたちと一緒に歌うステージ、バンドなどの演奏や高校生の群舞、最後は平和行進団が登場してフィナーレの大合唱に。この日は他にも4階会場で原爆パネル展(ノーベル賞メダル展示)、各集会場で講演、展示、詩の朗読と歌、平和の交流スペースなど盛りだくさんで、一日お楽しみいただけますのでぜひ足を運んでいただけますようお願い申し上げます。

また今回は参加費につきましては無料として、すべて賛同金を募集して開催します。つきましては、この平和のつどいを成功させるため、団体・個人のみなさまに、賛同の募金にご協力をよろしくお願いいたします。

あいち平和のつどい実行委員会 舟橋幹雄



原水爆禁止 2025 世界大会(長崎)に参加した青年からの報告



東海青年のうたごえ 滝田 杏

愛知県高校生平和ゼミナールの瀧田杏です。沢山の方々のご支援と応援により、ナガサキツアーに行ってきました。今年で高校三年生となり、高校生として3回目、そして最後の参加となり、多くのことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。以下報告させていただきます。

原爆が投下された日は昔話ではなく、実際にあったこと

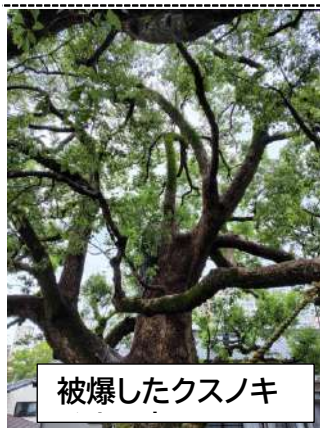
大きくわけて、フィールドワークと各集会への参加をしてきました。

フィールドワークでは、長崎原爆資料館、平和公園、山王神社、如己堂、浦上天主堂などを巡りました。特に心に残っているのは長崎原爆資料館です。原爆の影響で焼けこげた建物や当時生きた人の衣服や日記などを見ました。その中でも、展示の前のパネルにあった、「原爆が投下された日は昔話ではなく、実際にあったことである」という言葉が心に残っています。教科書では、何万人の人が亡くなった、建物がどのようになってしまったか、などのデータとしてしかのりません。また、のっていたとしても授業ではそこまで詳しく学びません。そのため、高校1、2年生に参加したツアーでその時代に生きた人がいたこと、その人たちが私と変わらない日常を送り、感性を持っていたことを学びました。しかし、その感覚はなんとなくのものであったため、はっきりと言葉にするこのパネルの文に心動かされました。

集会には、被爆80年のつどい、全国高校生平和集会、被爆80年ナガサキデー集会に参加しました。その中でもすごく有意義な時間だと感じたのは、全国高校生平和集会です。全国で平和活動を行う高校生たちが集まり、活動報告や意見交流をしました。平和のために高校生である自分たちが何をできるのか、平和活動をどうやって広げていけるのかなどを話しました。やはり、平和についてや選挙について、学校の友達に話すことは難しいと思ってしまう。そのため、多くの高校生と熱く議論できたこの時間はとても貴重だと思っています。

その中で、先月の参議院選挙について高校生も投票権をもつということで、情報収集の仕方がわからない、ということや投票することへの責任感が必要、などの意見が出ました。高校生たちと議論し、意見を共有しあったこの集会はこれからも平和について考えていきたいという意志を強くしてくれたと思います。

このツアーで特に感じたのは、「どれだけ知ろうとしても、真の意味で戦争を理解することは出来ない」ということです。戦争についての本や映画を見たり、資料館で展示をみたり、被爆者の方や戦争体験者の方のお話を聞いくたびに、想像してもしきれないことを痛感します。「苦しい」という言葉だけでも、私が想像しうるものをはるかに超えた「苦しい」であると思い知らされます。ですが、同時に「それでも、知ろうとして、理解しようとするのが大切である」とも感じます。これから先、真の意味で「戦争」を知る人が増えていかなく、戦争を学び、平和を考えていきたいと思っています。



被爆したクスノキ

名古屋青年合唱団 水野桐弥

私はこの夏、初めて長崎を訪れた。実は飛行機に乗るのも初めてで、不安の方が大きかった。しかも機体に傷が見つかり、出発が2時間遅れるという思わぬトラブルもあり、暴乱の幕開けとなった。上昇や下降の度に体が浮くような感覚に怯え、気流や雨で大きく揺れた時は寿命が縮むかと思った。着陸の衝撃音にも驚かされた。

その影響で原爆資料館の滞在は予定の3時間からわずか45分に短縮されたが、それでも展示の多くを見ることができた。被爆者の証言や写真は想像を遥かに超える惨状を伝えており、言葉を失った。本や資料で学んできた何十倍もの衝撃で「これは現実に日本で起こったことなのだ」ということをとても信じることができず胸を突かれた思いだった。

涙をこらえながら語られる言葉は書物以上の重み

続いて「被爆80年の集い」に参加した。弁当をいただいた後、DVDや生の証言を通して被爆体験を聞いた。涙をこらえながら語られる言葉は書物以上の重みを持ち、「戦争を二度としてはならない」「ナガサキを最後の被爆地に」という強いメッセージは私の胸に大きく響いた。第二部では被爆者の体験を基にした合唱曲『平和の旅へ』を「長崎のうたごえ」の皆さんと共に歌った。亡き家族や友人を思い出す辛さから、話すことをためらってしまう被爆者もいると聞く中で、未来に伝え続けようとする渡辺さんの姿勢に心を打たれた。

二日目は山王神社を訪れ、半壊しながらも残る鳥居や「被爆の木」に生命の強さを感じた。浦上天主堂では建物の上から崩れ落ちた鐘をみて爆風の凄まじさを知った。永井隆記念館では、病を抱えながらも人々を救おうとした博

士の生き方を学んだ。さらに平和公園や爆心地公園では、緑あふれる姿に「平和の証」を感じ、互いに知らない人々が協力して鐘を鳴らす姿をみて、人と人が手を取り合う大切さを学んだ。

午後の高校生平和集会では、全国の高校生が署名活動やデモなどの取り組みを紹介していた。私は平和活動について知らないことが多かったため、平和活動をする者の熱意に刺激を受け「自分も歌で平和を伝えたい」と強く思った。音楽や芸術ならば言葉で伝えきれない思いを心に響かせられる、と実感した瞬間であった。

三日目は原水爆禁止世界大会に参加した。各国の代表や政治家のスピーチからは「ヒロシマ・ナガサキのような出来事を繰り返してはならない」という決意が伝わってきた。高校生の発言もあり、同世代が真剣に平和を考えている姿に誇らしさを覚えた。最後に「ウィー・シャル・オーバーカム」などを大合唱し、会場が一体となった時、改めて歌の力を感じた。

観光ではグラバー園や大浦天主堂を巡り、長崎の自然と歴史に触れ心を和ませた。今回の旅で最大の収穫は「平和を歌で伝える」という自分の使命を実感できたことだ。無事に帰路につき、この経験を一生の糧にしたいと思う。

響かせよう！ 広げよう！ うたごえの輪

9 地区中 6 地区合唱発表会の結果



◆名古屋南部地区合唱発表交流会 8/11

10団体(交流3団体、コンクール7団体)

参加人数 123 名 (出演者112名)

①ふれあい合唱団(交流)	推薦
②港湾合唱団星波(職場)	
③うたやーせ(職場)	準推薦
④アコセーター(交流器楽)	辞退
⑤土古コーラスゆりかご(女性)	推薦
⑥みどりんコーラス(交流)	推薦
⑦マ・モルテ(職場)	推薦
⑧愛知医療合同合唱団(職場)	推薦
⑨名古屋青年合唱団結い結い班(一般)	辞退
⑩合唱団みどり(一般)	推薦

◆名古屋西北みんなでつくる楽しいフェスタ 8/17

10 団体(交流 5 団体、コンクール 5 団体)

参加人数 140 名(私鉄のうたごえ交流会と共催)

①西新婦人コーラスひまわり(交流)	辞退
②クレージー・ソルト(交流)	辞退
③名古屋北部合唱団(コンクール)	推薦
④フィフティーズ(交流)	辞退
⑤年金者組合合同合唱団(交流)	辞退
⑥名古屋青年合唱団あっぷ up 班西北チーム (コンクール)	辞退
⑦うたごえ広場ルンルン(コンクール)	推薦
⑧西新婦人 希望の鳥(コンクール)	推薦
⑨新生福祉会レインボー(交流)	辞退
⑩名鉄わだち合唱団(コンクール)	辞退

◆中 A 地区のうたごえフェスティバル 8/30

17団体(交流10団体、コンクール7団体) 参加人数170名

〔交流の部〕

・チームチャりんこ	推薦
・昭和うたう会	辞退
・野の花合唱団	辞退
・広島街をうたう合唱団	推薦
・混声合唱団ホットスルーズ	辞退
・名青うたの学校 105 期	推薦
・ちくさうたう会	辞退
・リコーダーアンサンブルエルピス	辞退
・銀色の翼合唱団	推薦
・東海青年のうたごえ	推薦

〔コンクールの部〕

・名古屋青年合唱団	推薦
・タガリーズ	推薦
・長久手児童合唱団	推薦
・名青うたの学校昼のコース アガトス 21 期	推薦
・名青たらんたらん班	辞退
・天白わが町合唱団にんじん	準推薦
・名青サザン部	辞退



◆知多のうたごえ合唱発表交流会 8/31

10団体(交流6団体、コンクール4団体)
参加人数250名(出演者130名)



〔交流の部〕

・合唱団ピース9知多	推薦
・歌いたい人集まれ合唱団	推薦
・アンサンブルポラーノ	推薦
・年金者ひばりコーラス	推薦
・キラキラシンガーズ	辞退
・ハーモニーあぐい	推薦

〔コンクールの部〕

・コーロ・クレアーレ	辞退
・合唱団知多	準推薦
・コール東海	推薦
・男声合唱団 Ein Prosit!	推薦

◆東三河うたう仲間のフェスティバル 8/31

9団体(交流6団体、コンクール3団体)
参加人数215名(出演者115名)

〔交流の部〕

・恵の実 命かがやけ歌い隊	辞退
・豊橋「あそび虫」	辞退
・Hygge(ヒュッゲ)	推薦
・豊川親子合唱団たけのこ	推薦
・うたごえサークルにじいろ	辞退
・合唱劇「カネト」をうたう合唱団	推薦

〔コンクールの部〕

・東三河うたの学校	推薦
・青年のうたごえ「颯」	推薦
・Utamen	

◆西三河心つなごう音楽会 8/31

19団体(交流8団体、コンクール9団体、他2団体) 参加人数150名(出演者135名)

〔交流の部〕

・樹音(じゅね)タルト	推薦
・T・U・K(高浜うたう会)	推薦
・ひまわりの会	辞退
・あいづま歌おう会	辞退
・うたごえサークルおたまじゃくし	辞退
・合唱団「青い空」	辞退
・フリーダム・マイハート 50th記念合唱団	推薦
・西三河 Peace9 合唱団	推薦

〔8分枠の部(審査対象外)〕

- ・さわやかコーラス
- ・知立ゴスペルクワイア

〔コンクールの部〕

・アイリッシュ	辞退
・ハチぼこリッシュ	推薦
・トヨタ労働者うたう会	準推薦
・刈谷親バトコーラス	推薦
・知立うたう会	
・Piacere! (ピアチェーレ)	推薦
・G3S	
・ほっと夜明け	推薦
・合唱団西三河	推薦



みんなで日本のうたごえ祭典 in 神戸・ひょうごに連帯しよう!

◇日時:2025年11月22日(土)~24日(祝月)

◇会場

24日 大音楽会・ジーライオンアリーナ神戸
23日 特別音楽会・神戸文化ホール大ホール
22日 日本万響祭・神戸文化ホール大ホール

◇神戸祭典の賛同金にご協力をお願いします。

特別賛同金一口 10,000 円(大音楽会指定席贈与)

一般賛同金一口 1,000 円

(特別、一般共プログラムに名前を掲載)

◇大音楽会、特別音楽会の自由席チケットは愛知のうたごえ協議会へ申込みをお願いします。

常任エッセイ

歌って参加!

聴いて参加!

毎回、不登校だった息子のことを書いていますが、彼は今年高校生になりました。近くの定時制(昼間)に通っています。学校楽しいか?の質問に「普通」とそっけなく答えるけど、嫌でないなら楽しいほうだろうと解釈します。彼が立ち直れたのは、子ども若者総合相談センターから毎週来てくれるお兄さんと過ごしたことが大きいと思います。先日、その職員が来て(「学校に通えているからもういいのではないかと、支援の終了をもちかけられると、「僕より、必要とする人のほうに行ってもらえたら」と答えたことに成長を感じました。自分らしく歩む姿を見守りたいと思います。

(東海青年のうたごえ 角田 優和)